

令和元年度 第1回伊勢原市地域公共交通協議会 会議録

- 〔事務局〕 都市部都市政策課
- 〔開催日時〕 令和元年7月10日（水）午前10時30分から11時30分まで
- 〔開催場所〕 伊勢原市役所本庁舎2階 2C会議室
- 〔出席者〕
- （委員） 藤井会長、穴戸副会長、小堤委員、秋元委員、齋藤委員、落合委員、小川委員、後藤委員、宮本委員、古尾谷委員、大川委員、宮川委員、福永委員、市川委員、小泉委員、黒石委員、菊本委員
- （代理出席） 小林委員（代理：水川委員）、山際委員（代理：岩本委員）
（三橋委員は欠席）
- （事務局） 重田都市部長、飯田参事兼課長、佐野主幹兼係長 他1名
- 〔公開の可否〕 公開
- 〔傍聴者〕 0名

《会議経過》

- 1 開 会
- 2 委 嘱
- 3 あいさつ（高山市長）
- 4 会長及び副会長の選任
- 5 議 題
（1）令和元年度事業計画（案）について
- 6 そ の 他
- 7 閉 会

《 議 事 》

会 長 それでは、次第に従い、議事を進めます。

本日の議題は、

(1) 令和元年度事業計画（案）について

1点となっています。

事務局から内容の説明を行い、その後、委員の皆様のお意見等をお聴きしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

それでは、

議題の(1) 令和元年度事業計画（案）について

事務局から説明をお願いします。

事 務 局

【説 明】

会 長 ありがとうございます。昨年度からの継続事業や新たに展開していく事業について、説明がありました。

ノンステップバスやユニバーサルデザインタクシーについては、着実に導入が進んできています。

また、各公共交通事業者においては、利便性を向上し、利用者を増やしていくための様々なサービスとともに、意識啓発にも取り組まれています。

また、世界でも主流になってきている MaaS の取組については、伊勢原市内での展開の可能性を勉強し、深めていくとの説明がありました。

この案件につきまして、御質問等ございましたらお願いします。

委 員 高齢者の免許返納について、返納後の移動に不安があるため、免許返納が進まないことが大きな課題となっています。

伊勢原市は、比較的、交通アクセスが良いですが、免許返納とあわせて、定額タクシー等の対応が必要であると考えています。このことについて、将来の計画などがあれば具体的に教えてください。

会 長 事務局、いかがでしょうか。

事務局 今後、高齢者の移動を公共交通でどのように支えていくかという視点は、必要であると考えています。

例えば、定額タクシーなど、家から目的地までの移動サービスが考えられますが、国においても、タクシーの有効活用に取り組んでいく方向性が示されています。

また、東京都や千葉県などで初乗り運賃の値下げの取組が進められています。

こうした動向等を踏まえながら、今後、検討していきたいと考えています。

委員 公共交通空白地区等について、コミュニティバスなどの公共交通の充実を図ることで免許返納がしやすくなると思います。

タクシーに限らず、全体的な公共交通のお考えについて、もう少しお聞かせください。

会長 事務局、いかがでしょうか。

事務局 今回から市の福祉部局にも参加して頂いておりますが、庁内連携を図り、どのような取組を進めていくことができるか、議論を深めていきたいと考えています。

例えば、新しいバス路線を通していく場合、事業の持続性が問われます。そのため、全国的に取り組まれている事例を研究し、伊勢原市への適合性などについて、公共交通事業者の意見を聴きながら、進めていきたいと考えています。

会長 公共交通の枠組みで、どこまで人々の移動を考えるかは、難しい問題で、公共性を意識する必要があります。

民間のバス路線については、民間事業として成り立つところが大前提となるため、それ以外のところについて、市でコミュニティバスや乗合タクシーなどの対応をする場合があります。

市域にタクシーがあれば、全域カバーできているので、公共交通空白地区はないという考え方もありますが、料金抵抗があると外出しづらくなります。

そのため、健常的な生活を送る外出行動の機会を促すため、市が支援して

いくという考え方がありますが、コミュニティバスなどで行政が多額の負担をすることが正しいのか議論になっている自治体もあります。

こうしたことから、全体を支える公共交通のラインと個人を支える福祉のラインを地域ごとに検討していく必要がありますが、その線引きがとても難しいです。

今回から、福祉部局に委員として参加して頂いておりますので、公共交通の中の福祉をどうしていくべきか、PDCA サイクルにより皆様で確認し、毎年改善しながら進めていくことができれば良いと思います。

委員 昨年10月に神奈中タクシーと相模中央交通において、定額タクシーの実証を行いました。

PR不足で利用者が少なかったですが、本格運行に向けて検討を進めていきたいと考えています。

また、他市では、乗合タクシーの運行も行っていますので、こうした取組を参考にしていきたいと考えています。

初乗り運賃については、消費税の改正と合わせ、1.2kmまで500円にするという申請を運輸局に出していますので、認可されれば、実施していきたいと考えています。

会長 情報提供ありがとうございました。

初乗り運賃500円ができると、コンパクトで短距離移動が多い伊勢原市には、大きな移動の支援になると思います。

その他、ご意見等はございませんか。

委員 過去の実績をみると、マタニティサポートタクシー以外のサポートタクシーが利用されていないようですが、タクシーを利用する場合、金額を気にされる方が多いので、観光案内所では大山や日向方面の目安となる料金を示しています。

そのため、サポートタクシーをもっと周知をしていく必要があると考えていますが、手数料などの料金設定が分からないので、私達も知っておきたいと思っています。

委員 時間制運賃でサービスを行っており、特別に料金を頂くわけではございません。なお、付添いサポートについては、メーター料金でのご利用も可能です。

これから、事前確定運賃も始まっていきますので、多くの方に利用して頂けるよう、しっかりと周知を行っていきたいと思います。

会長 これから検討を進めていく MaaS は、日本で全体像がまだ固まっていませんが、例えば、実際に外国の方がタクシーを利用される際に、外国語対応が事前に情報提供されていれば利用が増える等、幅が広く利便性が向上する取組です。

大山などの国際的に観光客を呼べる場所があるところでは、シームレスな交通環境をつくるのが大事であると思いますので、事務局と交通事業者が連携して検討して頂きたいと思います。

その他、ご意見等はございませんか。

委員 バスの乗り方教室について、他の自治体で福祉部局と連携し、高齢者を対象に教室を実施している事例がありますので、ご検討をお願いします。

会長 免許返納者を対象にバスの乗り方教室を実施している事例が、自治体に限らず警察署でも行われています。

公共交通に転換する環境づくりについて、事務局でも整理して頂きたいと思います。

その他、ご意見等はございませんか。

委員 高齢者の免許返納については、他市の事例で、かなちゃん手形の購入価格の3分の2程度を助成金で補填する仕組みを10年以上前から取り組んでいる自治体や、免許の返納者に対して、かなちゃん手形の1年券を進呈している自治体がございます。

市の財政状況もありますが、自家用車から公共交通にスムーズに転換できる取組として、紹介させて頂きました。

会 長 その他、ご意見等はございませんか。

特にないようですので、これまでの取組を継続していく内容や事例を研究し更に深めていく内容などについて、委員の皆様から頂いた意見を含めて、事業計画を進めていくということによろしいでしょうか。

全会一致

【意義なし】

会 長 ありがとうございます。

それでは、今年度は、この事業計画案に基づいて進めさせていただきます。

それでは、その他としまして、皆様から何かありますか。

委 員 神奈中ハイヤーと相模中央交通、伊勢原交通の三者が合併し、神奈中タクシーという会社になりました。

神奈中タクシーは、小田原市、三浦半島、鎌倉を除く県内全域と町田市で運行しています。車両数は約900両ございます。また、海老名と厚木と湘南に相模中央関係の子会社が残っていますので、総数約1,000両のタクシー会社です。

こうした中、伊勢原市内では、昨年、上粕屋に新たな営業所をつくり、市内合計約70両のタクシーが稼働していますので、利用の便が良くなったと思います。

引き続き、よろしく申し上げます。

会 長 その他、特にないようでしたら、進行を事務局へお返ししたいと思います。皆様の御協力で議事進行を円滑に進めることができました。ありがとうございました。

閉 会